緑化樹木の情報誌
緑化通信
2023 4月25日（年６回25日発行）第498号

発行所
一般社団法人 日本植木協会
〒107-0052　東京都港区赤坂6-4-22　三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361　FAX.(03)3586-7577
URL：https://www.ueki.or.jp/　E-mail：honbu@ueki.or.jp
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料　5,000円

ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C008422
環境に配慮するためFSC®森林認証紙を使用しています。

新樹種部会

令和5年度新樹種部会通常総会開催
設立30周年記念大会

集合写真

総会風景

丹下貴啓 部会長

令和5年度新樹種部会通常総会は、3年ぶりの対面の総会ということで、29名の参加を得て、2月17日㈮東京都港区のAP虎ノ門において開催された。総会は、越川芳弘氏の司会で進行し、足澤匡副部会長の開会宣言で開始され、丹下貴啓部会長が挨拶し、引き続き眞鍋憲太郎担当理事から祝辞を頂いた。

次に、議長選出が行われ、議長に城処章氏を指名し、議長は議事録署名人に濱田秀蔵氏と大木薫氏を指名し出席者の承認を得た後、議案の審議に入った。

第1号議案　令和4年度事業報告、決算報告及び監査報告については、丹下部会長が部会員の動向及び主要会議等の報告を行い、引き続き、各委員長から事業報告がなされ、事務局からの決算報告後に、前野眞澄監事より事業及び決算は適正に処理されているとの監査報告が行われ、賛成多数をもって第1号議案が承認された。

第2号議案　令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について丹下部会長より事業計画全体の説明があり、各委員会における具体的な計画(案)、令和5年度予算(案)の説明がされ、賛成多数をもって第2号議案が承認された。

第3号議案　動画等管理規程(案)について丹下部会長が説明を行って満場一致をもって承認された。

第4号議案　その他　議長から、意見・提案等を求めたところ、新樹種部会の所有している豊富な写真とか有望推薦樹種等の提案をしていただけたら幅が広がるサイトができるのではないか。新樹種ガイドブックの初版本は入手可能なのか、またハンディーサイズやホームページに掲載するなどをお願いしたい。データとか写真が欲しい場合は、多少有料になるかもしれないが、データ管理委員会が管理しているので、活用して欲しい等の意見があがった。

議長は、すべての審議事項が終了したこと告げ退任した後、足澤副部会長が令和5年度新樹種部会通常総会を終了すると宣言し幕を閉じた。

その後、設立30周年記念としてパネルディスカッション、安藤敏夫先生の講話、懇談会が開催された。

記念として30周年のあゆみ
「夢のある植物の開発と普及をめざして」

新樹種部会設立30周年記念大会
講話とパネルディスカッション

総会終了後、新樹種部会設立30周年記念大会が開催された。パネルディスカッション「部会30年の歴史とともに〝これからの新樹種〟を語る」では、パネリストの持つ専門知識や、独自の経験や見解から得られる情報は、非常に興味深いものであった。

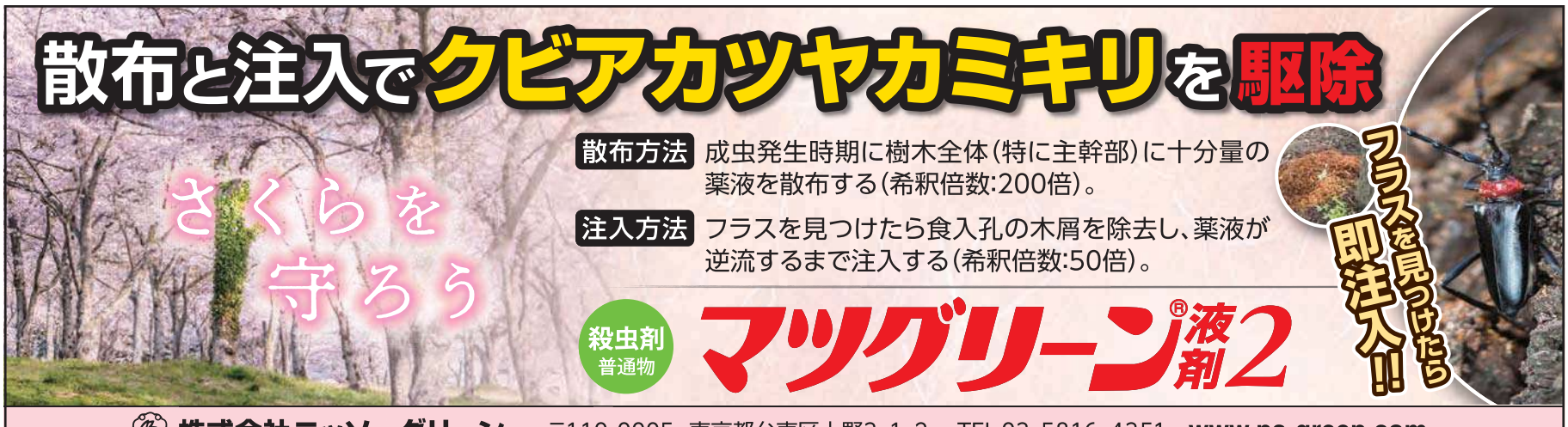
その後、新樹種部会顧問である千葉大学名誉教授安藤敏夫先生による講話が開催された。

新樹種部会の植物知識は高く、多くの功績を残している。飲んでるばかりでなくちゃんと勉強をしている。今後も国内育樹を活発にしていくことを新樹種部会に託したいと叱咤激励のお言葉を頂いた。情熱的な講話は、聴衆した部会員を魅了し、深く共感しとても勉強となり、盛大に終了した。

コーディネーター：副部会長　足澤匡氏（右端）
パネリスト：左から尾上信行氏、小林公成氏、川原田邦彦氏

講師の安藤敏夫顧問

懇談会の様子



青年部会

令和5年度通常総会 静岡県浜松市で開催

青年部会・令和5年度通常総会は、静岡県浜松市のホテルクラウンパレスにて2月8日㈬13時より開催された。

愛知県支部の大崎晃寛氏の司会で進行された。総会参加者80名、Ｚｏｏｍ参加者12名、委任状参加33名で総会成立の定足数に達したことが報告され、植島春樹副部会長の開会宣言に続いて、福島啓輔部会長の意気込みのある挨拶があった。その後、辰巳広之担当理事、小畑勝裕中部ブロック長の熱い激励の祝辞を頂いた後に、賛助会員さんの紹介を行った。

総会風景

議長選任では三重県の加藤時生氏が就任し、議事録署名人として小林祐輔氏、原島大地氏を指名し、議事に入った。議長より、第一号議案と第二号議案、第三号議案と第四号議案は関連性があるため、一括審議の提案があり会場より賛同を得た。

第一号議案　令和4年度事業報告、第二号議案　令和4年度決算・監査報告について

令和4年度事業報告は福島啓輔部会長、植島春樹副部会長、越川芳弘副部会長、森田圭総務委員長、田宮愼二事業委員長、各ブロック長より、部会員動向、総会、幹事・支部長合同会議、全国研修会、各ブロック研修会、本協会出向委員会などについて報告。令和4年度決算は事務局より報告があり、監査の荒井秀史氏より監査報告で適正に処理されている報告があった。議長が審議の後、第一号、二号議案の一括採決を行い賛成多数で承認された。

第三号議案　令和5年度事業計画案、第四号議案　令和5年度年度事業予算案について

令和6年度通常総会は、九州ブロックにて開催することが賛成多数で承認された。福島部会長から令和5年度の事業計画案、植島副部会長より組織の拡充、研修の充実、PR活動の推進、本協会事業への参加の報告、越川副部会長から関係機関との交流、記念準備金積立そして緑育出前授業の実施計画の報告が行われた。また部会長より「青年部会運営における基本的感染対策ガイドライン（案）」についての説明が行われた。令和5年度事業予算案が事務局より報告され、審議の後、議長が第三号議案、四号議案の一括採決を行い賛成多数で承認された。

第五号議案　次回開催地について

以上の議案をもって総会を終了した。

その後、3年間対面にて総会が出来なかったことより、令和3，4，5年度の3年間の新会員紹介を行った。そして午後3時5分より下記内容で総会後記念講演が行われた。

記念講演

税理士・1級ファイナンシャルプランニング技能士　伴　洋太郎氏

「インボイス制度導入後の植木協会の今後の対策について」

講師　税理士の伴洋太郎氏

まずは消費税の仕組み、インボイス制度の仕組み、制度開始までに出来る対策について講演してくださいました。インボイス制度を導入するのはなぜか?その目的、仕入先様とのよい関係を築く方法等を噛み砕いてくださった内容はとても分かり易く、生産や卸をしている会員にとても身になる貴重な講話でした。

社会保険労務士　平野謙吾氏

「緑化業界の各種補助金や建設業の制度について」

講師　社会保険労務士の平野謙吾氏

人口、労働人口減少による現在の後継者不足の中で、人を雇う、自社に居続けてもらうためにどうしたらいいか?を考えるにあたっての法改正のポイント、リスク・問題点・実務の対応、助成金について教えてくださいました。特に諸々の助成金については、とても興味深く勉強になる講話でした。

執行部の皆さん

ここ３年間に入会された新会員紹介

議長の加藤時生氏

司会の大崎晃寛氏

全員で集合写真

【講演会】

賛助会員の方々

リモートで総会に参加された方も12名程いました

真剣に聞き入る講演会

意見交換会全体風景

令和４年度で退会された中西誠氏の挨拶と胴上げ

乾杯の挨拶をしてくださった村松達彦　静岡支部長

【意見交換会】

福島啓輔　部会長　挨拶

令和4年度もコロナ感染拡大の影響で出来ることに制限があり、3年ぶりに皆さんと対面での総会が出来たことを嬉しく思います。また10月に西畠清順氏を講師として全国研修会が出来たことは、大きな励みとなりました。そして今後、皆さんが安心安全に事業が出来るように、青年部会運営における基本的感染対策ガイドライン（案）を作成したので、今後はますます対面でお会い出来る機会を作って行きたいです。一緒に頑張りましょう。

辰巳広之　担当理事　挨拶

隣にいる小畑ブロック長は青年部会で苦楽を共にした仲間です。今は時代が違い厳しい時代ですが、自分たちで動かないと何も切り開けません。若い方たちの新たな考えで道を切り開いて行ってください。私たちは青年部会を全力でサポートをしますので頑張ってください。

小畑勝裕　中部ブロック長　挨拶

今やＳＮＳの発信の盛んな時代です。もちろんこのＳＮＳは大いに活用して欲しいのですが、年に1度の総会や研修では、顔を合わせて話をし、情報交換できる貴重な時間です。この浜松は、ＮＨＫの大河ドラマでも放映してますが、家康が浜松に来て一番苦労した場所です。そしてちょうど皆さんと同じような年齢で、後の徳川幕府を作る礎を作りました。ですから浜松城は出世城と言われていますので、行ってみてはいかがでしょうか?今日の対面での交流の会を有意義な時間にして欲しいです。

ルポ

シリーズ 社園さん紹介 No.16

㈲熊本緑化センター

熊本県（上益城郡）

植木のインターネット販売をする「トオヤマグリーン」さん。実は、社長の遠山彰さんは、穏やかな外見からは想像もつかないパワーの持ち主で頭脳派。24歳で会社の代表となり、10人の従業員さんが全員正社員という超優良会社の社長さん。そんな遠山さんに経営の秘訣と、おばあちゃんになってもここで働きたいと言う明るい従業員さん達に会社の魅力をうかがいました。

前列右から社長の遠山彰さん、会長の遠山浩俊さん、お母さまの英子さんと従業員の皆さん

右往左往しないようデータベースを元に携帯でピッキングをしている

植木のネット販売の先駆けである会社の経緯は？

社長の遠山さん：「平成８年に設立して私は２代目です。現在はネット販売がメインで売り上げの９割以上を占め、樹種が100種類程の多品種少量性で販売しています。“トオヤマグリーン”という名称でネット販売サイトを４店舗運営していて、全国の植木協会員さんから商品を取り寄せさせて頂いています…この場を借りてお礼を言いたいです」。

インタビュー画面　社長の遠山彰さん

メイン事業となったネット販売を始めたきっかけは？

遠山さん：「今から19年前にネット販売を始めました。きっかけは、私の単なる興味本位で“オークションサイトに植木を出展したら売れるのか？”という素朴な疑問からです。まだオークションの走りで、スマホが普及する前の時代だったのですが、植木が売れたんです！きっと珍しかったのでしょう。ですから崇高な考えではありません（笑）」。

だいぶ若い時に社長になられてますね!?

遠山さん：「はい。ネット販売が軌道に乗り始めて、ネットモールやネット決算の契約等の手続きが増えてきました。当初は、父がとりあえず契約書にサインしていたのですが、やはり私でないと分からない事が多々出てきたので早めに代替えしました。私もしたくてしたのではないですし、父のサポートありきです」…お父様の決断もすごいですね。

ネット販売での苦労した点は？

遠山さん：「梱包は、最初はネットやビニールを巻いただけで出荷をしてましたが、耐久性と荷姿のきれいさを求めて、オリジナルダンボールを徐々に作成しました。近所の段ボール屋さんに行っては試行錯誤して現在は型が25種類にもなりました。開発当初は強度が足りなくて全部廃棄したこともありました。サイズが20㎝大きくなっても送料が変わってくるのに、出荷数が百、千、万単位になると金額が大幅に変わります」。

では、会社で工夫していることは？

遠山さん：「５、６年前に“誰でも働きやすい環境づくり”を目指してソフト面とハード面で取り組みました。10人の従業員さんは全てが正社員でうち女性が８人です。産休・育休の受け入れ体制の強化、土日祝日は休み、有給の取得促進。平日は８時～17時勤務で社員が残業を始めたら私ができるだけ控えるように指導しています。また柔軟に早退や遅刻も言いやすい環境を作っています。ですから、誰でもどの部署の作業ができるよう教育を行い、全体での余剰人員を設けて取り組んでいます。一時、４人同時に産休でバタバタだった時もありました（笑）」。

ハード面は？

遠山さん：「“軽トラやワゴンは、マニュアル車は扱いづらいのでオートマ車がいい”という意見が挙がったので車を全てオートマ車に換えました。また“キツイ”作業を減らすことを考え、重作業を減らすための機械化も取り入れました」。

会社の経費が掛かることばかりですね？

遠山さん：「ずっと働いてもらう以上、社会保険や厚生年金に入ってもらうことは、その人にとっていいことだと思ったのです。でもその分、会社では高い生産性を出すための工夫はしています。１つは、社内で仕事や植物に対しての共通認識の構築です。２つ目は、社内マニュアルの作成です。チェックシートを作成して周知しています。３つ目は、社内ツールの作成です。社内システムを使用してどこの圃場に何の植物があるか右往左往せず一筆書きで作業が出来るようにしています（物流用語だとピッキングと言うと教えてもらいました）。４つ目は誰でも見てすぐに分かるよう可視化を実施しています」。

すごい経営学ですね？

遠山さん：「え？（笑）、ある理想を出来るようにしたいから、実現に向けての必要な下積みの勉強はしています。でもそのために、従業員さんを縛ったりせずに、包む感じに進めるのが私の理想なんです。子どもの頃、毎年父に植木市に連れて行ってもらいました。私にとってそこが植木屋さんの原点でもあり商売の基礎です」。

今後の展望は？

遠山さん：「今後、社会や環境も変化して環境問題、電気や物価の高騰、人手不足、高キャリアの賃金上昇、2024年問題のドライバーが減る問題等があります。だから植木屋さんとしての事業を見直し再構築も必要になっていくのだと考えています。うちの会社としては、持続可能な事業を目指してワクワクするような植木屋さん、面白い植木屋さんを目指しています」今もワクワクしていますね。

休日の過ごし方は？

遠山さん：「昔は海外旅行も好きで色々な国に行きましたが、今は小さい子どもが３人いるので遠出は出来ないです。でも春になったら大型バイクで移動して色々なものを見たいです」。

インタビュー画面　左から古閑さん、藤島さん、田中さん

多種類のダンボールで発送準備

事務の古閑さんのお仕事は？

古閑さん：「私は入社10年目で、主にネットでの受注に対して伝票を作成したり質問に答えたり発送連絡等をしています。繁忙期は一日に２～300件ありますが、よく生産の方も手伝います。パソコンの前だけだとどうしても根を詰めてしまうけど、土いじりは楽しいし、外にでると気分も晴れてまたパソコンで頑張れます！」と生き生きと話してくれました。

お客様の質問に答えるのは大変ですよね？

古閑さん：「はい。いつ頃、どうやって植えたらいいか等の分からない質問は、生産担当者や遠山さんに聞いています。入社した時には植物の知識を得るための本を全員に渡されているので大丈夫です（笑）」。

生産担当の藤島さんのお仕事は？

藤島さん：「私は入社14年目です。生産の担当は私を含めて４人です。挿し木や種蒔きや鉢替えをしたり、植物の発送の梱包もしています。夏場はきついですが、有休、産休、育休、そしてコロナ感染の就業手当の申請に対しても会社側が率先して手続きをしてくれます。私は定年後もここで働き続けたいです！」と言う。そう思える素晴らしい会社なんですね。

田中さんも生産ですか？

田中さん：「まだ入社半年なので先輩に教えてもらいながら掘り取りや根巻等もしています。樹木の特性を覚えながら仕事をすることに遣り甲斐もあり楽しいです。皆仲がよくて働き易いです。今はチェーンソウとバックホー（ユンボ）の免許を取得するための講習にも行っています」。

感想：ずっと笑いの絶えないリモートインタビューで、社員さんがのびのびしているのが印象的でした。いい環境で、遠山さんの理想に向かっているのだなと感じました。

可視化で誰でも分かるよう貼ってある

入社時には「家庭の園芸百科」を読んでもらってるそうです。

繁忙期は一日に300件もネット注文が入る

誰でも運転できるオートマ車

梱包の機械化

賛助会員紹介

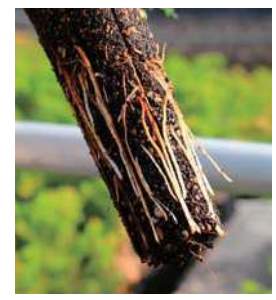
シリーズ2

谷口産業㈱

幅広いラインナップで、環境緑化に貢献する

〒597-0094
大阪府貝塚市二色南町 8-3
TEL 072-432-1828
FAX 072-432-1838
https://ts37.co.jp
e-mail : info@ts37.co.jp

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。弊社は昭和34年の創業から来年で創立65周年を迎えます。これもひとえに協会員様をはじめとする皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。弊社は繊維製品を主とした産業資材の製造販売からスタートし、製造販売品目を緑化・環境・農業関連資材にも広げ、現在に至っております。その中で緑化関連の主力商品をご紹介させていただきます。



【インナーポット】林野庁が開発したマルチキャビティコンテナに合わせて設計されたポリポットです。JFA150、JFA300と同じ根鉢容量・形状で、ポットの内側に根巻き防止用の縦筋リブを施し、底面はほぼ全開で、底に達した根が空気に触れて伸長がストップする空中根切り効果もあります。通常、マルチキャビティコンテナで育てた苗は孔（キャビティ）が連結しているため、不良苗を取り除いたり、育苗密度を調整したり等、苗単体で移動させることが出来ませんが、インナーポットを使う事により、自由に育苗密度の変更や間引きなどをすることが出来ます。また、専用器具を用いずに抜き取りが出来るので、根を痛める心配もありません。インナーポットは150cc、300ccとも1箱2400個入りです。

【TSシート】樹木を輸送する際のトラック用メッシュシートです。高強度のポリエチレンネット製で丈夫で長持ち。軽トラックから大型車サイズまで、オーダーメイドですのでご希望のサイズで作製いたします。

植木テープ

植樹杉テープ

植樹ロープ

【ジュート製品】弊社の緑化資材の原点でもあるジュート製品。弊社のジュート製品はすべて植物油を使用しているので、鉱物油含有のジュート製品に比べ、根の活着不良や分解後の土壌汚染のリスクを軽減します。植木テープ（根巻き、幹巻き用ロール）、三角布・四角布（根巻き用カット布）、植樹ロープ（麻ヒモ）を各種ラインナップしています。

【その他】スリングベルト・モッコ・フゴやフレコンバッグ等の運搬資材、遮光ネット・防風ネット・寒冷紗や杉皮・シュロ縄等の管理資材、各種ポット・鋼管支柱・PPコードやゴムバンド等の生産資材と緑化農業生産には欠かせない関連資材を各種取り揃えています。

モッコ

また、近年では環境・エネルギー問題、就農人口減少による耕作放棄地の増加や公共施設を含めた維持管理費用の削減などにより、雑草管理のための防草資材に注目が集まってきております。弊社は、樹木や地被植物の生育を守るため、雑草防止・地温安定・蒸散防止を主目的としたいわゆるマルチング材としてマルチング（防草）マットの販売をスタートし、今では10年を超える長期耐用品や環境配慮型の生分解品、砂利下用の景観品から空地等広面積でも使いやすいローコスト品等々15種類を超えるラインナップで幅広い分野に最適な防草資材をご提案させていただいております。

防草シートの３例

今後も『お客さまの声を迅速かつ的確に反映する』をモットーに、環境緑化事業にかかわる皆さまへのサービスの充実をめざして、さらなる努力を続けてまいりますので、今後とも温かいご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ノダフジ‘海老茶’

ノダフジ‘羽衣錦’
（斑入葉の品種）

ノダフジ‘胡蝶の舞’

ノダフジ‘六尺’

ノダフジ‘紫水晶’

ヤマフジ‘岡山一才’

ヤマフジ‘甲比丹（花美短）’

ヤマフジ‘昭和紅’

ノダフジ‘八重黒龍’

ノダフジ‘野田長’

※ナショナルプランツ　コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

素描挿話。
～すてきな花達に魅せられて

⑯シラネアオイ

小岩井農牧㈱（岩手県）
足澤（たるさわ）　匡（ただし）

「シラネアオイ *Glaucidium palmatum*」は、北海道から本州中部以北の林床に自生するキンポウゲ科の大形宿根草で、とても人気のある山野草です。１属１種の日本固有種。植物に精通している方なら、一度は聞いたことがあると思います。明るい黄緑色の新葉を背景に、黄色の雄しべと透き通るような淡い紅紫色の花弁（実は、「花弁」ではなく「萼片（がくへん）」）が微笑むように揺れて、立ち姿がとても優雅でした。私が初めて「シラネアオイ」のスケッチを描いたのは、岩手山の南麓にある馬の背のような形の「鞍掛山（標高：897m）」。「鞍掛山」は山野草が豊富で、手軽な登山の山として、また、自然観察会の場として親しまれています。さらに、岩手山を身近に感じられる山で岩手山の噴火騒ぎの時には、登山客がこぞって訪れました。詩人で童話作家である宮沢賢治は、岩手山には登らず、小岩井農場～鞍掛山～柳沢のルートを歩いたそうです。

ところで、「シラネアオイ」を漢字で書くと「白根葵」・・・、白い根を持つ葵？　根は全く白くありません。「控えおろう！」で有名な「三つ葉葵の御紋」の葵（フタバアオイ：ウマノスズクサ科）の葉にも似ていない・・・？　「三つ葉葵の御紋」の葉には、切れ込みや鋸歯（葉のふちにあるギザギザ）が無いのです。調べてみると、シラネアオイの別名は、「山芙蓉（やまふよう）」、「春芙蓉（はるふよう）」でしたので、アオイ科のフヨウやタチアオイなどの葉に似ることから名付けられた？　学名に付けられた種名は「*palmatum*」で、「掌状の（手のひらの形に似た）」という意味があり、例えば、「イロハモミジ *Acer palmatum*」も同じ種名が使われています。また、「白根」は「白い根」ではなく、「知らねー！」でもない。「日光白根山」が由来のようです。「日光白根山」を代表する花の一つですが、栃木県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。盗掘による影響なのでしょうね。とても残念で仕方ありません。

「やはり野に置け蓮華草（れんげそう）」と言いますが…、「レンゲソウ *Astragalus sinicus*」は中国原産。なぜ、「野に置け」なのでしょうか？　また、疑問が…。

いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。

岩手県滝沢市鞍掛山にて

～緑化木・種苗生産用資材　総合取扱い～

【取扱い品目】
根巻用麻ロープ・麻布・麻テープ、ポット類
支柱各種、防風網・寒冷紗・ネット類各種、
スリングベルト、モッコ、葉刈袋、その他

谷口産業株式会社
TEL：072-432-1828　FAX：072-432-1838　http://www.ts37.co.jp

地球にやさしく、植物にちから強く。
豊かなグリーンライフを提案します。

●コーティング肥料
ハイコントロール®
マイスター®
ニュートリコート®
●緩効性肥料
ユーバー®
ウッドエース®
IBワンス®

●芝・緑化用肥料
カントリーホスカ®
グリーンホスカ®
グリーンベース®
バーディー®肥料
●打ち込み肥料
グリーンハイル®

発売：JCAM ジェイカムアグリ株式会社　グリーンビジネス部
〒101-0041　東京都千代田区神田須田町2丁目6番6号　TEL.03-5297-8910　FAX.03-5297-8908

日本列島植木植物園　ナショナルプランツ　コレクション※

㊟川原田邦彦　確実園園芸場（茨城県）
☎029-872-0051

フ　ジ

藤というと日本人では、藤棚を思い浮かべる人が多いでしょう。誰もが知っている植物の一つです。

まれにですが、藤は花が垂れ下がるから縁起が悪いなどと言う人がいますが、本当なのでしょうか？実は日本では特に縁起のよい植物の一つとして知られています。名前の由来は、『不死』から来ていて、古代の人々は、冬に枯れてしまったように見えるツルから春先に蕾が膨らみ、花が咲く姿からそのように考えたのではないでしょうか。

さらにもう一つの伝説があります。大化の改新の時、中大兄皇子と中臣鎌足が春日大社の藤の樹の下で謀議をしました。革命が成功し、天智天皇となった中大兄皇子から藤原の姓と下り藤の家紋を下賜されて、藤原鎌足が誕生するという藤は天下取りの樹なのです。時代が下っていくと下り藤は大名以上、上り藤は御家人以下と明確な区別がありました。

当園では、現在５種約60品種を収集保存し、簡単にですが育種も始めました。

収集保存している品種の写真をいくつか紹介します。

フジとシナフジの交雑種
‘ニオイフジ’

ノダフジ‘八重黒龍’

ノダフジ‘黒龍’

ノダフジ‘一才’

ヤマフジ‘昭和紅’

ノダフジ‘三尺’

アメリカフジ

アメリカフジ‘白花’

ノダフジ‘口紅’

連載「西欧自然環境保全の旅」第1回

オランダ最大級の自然再生事業（テンハーメッテン島）

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授　上河原 献二

◆プロフィール
1984年東北大学法学部卒業、環境庁入庁
2013年より滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授として、環境法・環境政策を教える。現在は、侵略的外来生物管理法制度など自然保護法制度の国際比較を中心に研究。

皆さんは、オランダといえば何を思い浮かべるでしょうか。干拓によって国土を拡大してきた国で稠密な土地利用が行われているというのが一般的なイメージではないでしょうか。ところが、農村を湿原中心の自然保護区へ転換する事業がオランダで行われています。ロッテルダム中心部から南20キロほどの、デルタ地帯にある約1000haの小島（テンハーメッテン（Tiengemeten）島）がその舞台です。それは、オランダにおける自然再生事業の最大のものの一つとされています。自然保護団体（Natuurmonumenten）が1997年に島の土地所有権を取得して事業を開始しました。

島の東部では、麦畑などのかつての農村景観が保全されています。島の西部には干潟状の湿地が拡がっています。中央部は、堤防に穴があけられて、湿地性の草原になっていて、毛足の長いハイランド種の牛の群れが放牧されています。また、本土と連絡するフェリーの発着場があり、そばにはかつての農家を改造したビジターセンターと農業博物館が設置されています。さらにレストラン・キャンプ場付きの宿や子供用の野外の遊び場も設けられています。「自然保護区」とは言いながら、自然公園に近い利用がなされています。コロナ禍前の2018年には年間約５万人の来訪者があったとのことです。1997年当時、６戸が農業を営んでいましたが、2006年に全て立ち退いています。

テンハーメッテン島の自然再生事業は、オランダ政府の生態系ネットワーク計画（1990年）と南ホーランド州政府の「自然開発」計画（1994年）の一環として行われてきました。オランダの自然再生事業を支える考え方は、「自然開発（nature development）」と呼ばれています。「自然開発」論の主唱者たちは、自然の過程の促進を通じて自然の再生を目指すべきこと、「自然開発」地区の目指すべき目標を、伝統的な農村ではなく、人間社会以前の「原生的自然」（wilderness）に置き、農業など他の土地利用との分離を主張しました。しかし、そのことは農業関係者からの反発も招きました。そのため実際のオランダの政策では、「自然開発」は、従来の保全政策の補完として位置付けられました。自然再生において「原生的自然」を目指す考え方は、イギリスでも盛んになっていて、rewildingと呼ばれていますが、それには賛否両論あります。

テンハーメッテン島を含むハリングフリート（Haringvliet）川地域全体の自然再生も進められています。そのために島の西20キロほどにある河口堰（1971年完成）の試験的な部分開門が行われています。部分開門によって、もとの汽水域の生態系の再生と、サケ・マス類の遡上がライン川につながるこの水系で復活することが期待されています。沿岸域における堤防建設によって干拓と淡水域の造成を行ってきたオランダの国土づくりは、曲がり角を迎えているのです。

テンハーメッテン島とその周辺に示されるオランダの自然再生事業・政策は、自然再生の目指すべき生態系の姿は何なのか、農業や地域の主体とどのようにかかわるべきか、河口堰の見直しはどうあるべきかなど、多くの論点を日本の我々にも提供しています。

主な参考文献

上河原献二（2020）農村から湿原へ―オランダ・テンハーメッテン島の自然再生事業とその背景、地球環境学、15、103-113.

島の自然再生構想図（Natuurmonumenten より許可を得て掲載）

島の農耕馬

ビジターセンターと管理事務所

西部の干潟状湿地

（Tel）045-309-0018
（Mail）sp_ohata@daiary.ocn.ne.jp
（代行手続き方法）
入力シートをお送りしますと見積りが返信され、了承いただいてから作業し、結果をお送りします。ご確認頂いた結果を調査入力結果とします。

植生調査委員会　令和５年度 植生スキルアップセミナーのご案内

「日本海側中越地方の自然植生と土地利用を探る」をテーマに、燕市の国上山（くがみやま）のブナ林から新潟市佐潟の水生植物や日本海の海岸砂丘植物などを観察調査します。当日は植生管理士及び植生アドバイザー育成講座の先生方がご案内いたします。

1. 日時：令和５年６月28日㈬～6月29日㈭
2. 集合：JR弥彦駅前（新潟県西蒲原郡弥彦村）６月28日10：45集合
3. 観察地：国上山（ブナ林）、寺泊古民家群（タブノキ）又は野積（タブノキ）、佐潟（水生植物）、日本海海岸砂丘（ハマボウ等の海浜植物）
4. 定員：30名（先着順）
5. 参加費：会員22,000円（税込）
一般25,000円（〃）

※参加費には初日昼食・２日目昼食が含まれますが、宿泊代は含まれません

6. 宿泊：ＪＲ燕三条駅前のビジネスホテル　※宿泊は各自予約となります
7. 参加申込：令和５年５月26日㈮まで。申し込み用紙と詳細は別紙同封。

令和５年度　植生アドバイザー育成講座　受講生募集

講座は全３コースで構成されており、その優れた内容が評価され、環境省と農水省共管の「人材認定等事業」の育成事業として登録されています。

1. 日時：令和５年８月31日㈭～９月２日㈯および事前・事後ビデオ講習
2. 内容：
①年目「Ａ植生調査基礎コース」：植生学の基礎、日本の植生、植生調査方法、野外実習、データ整理と解析
②年目「Ｂ植生景観基礎コース」：植生景観の基礎、植生景観調査方法、野外実習、データ整理と解析、景観区分図の作成と修復計画
③年目「Ｃ植生復元・モニタリングコース」：生態学的緑化方法、植生景観計画に基づいた植栽計画、植生景観に基づく緑化工法事例
3. 講師：植生学の専門家の先生方で実施いたします。
4. 開催場所：なかのビレジ（群馬県利根郡川場村中野626）
5. 受講料：協会員60,000円、協会員以外65,000円（７月15日までの早期お申込みの方は63,000円）
（受講料は税込、研修費・宿泊費を含みます）

問合せ：協会事務局　☎03-3586-7361

会員動向

担当者変更
▷㈱ 鈴木克仁
㈲植英（静岡県）

訃　報

為貝はつい　様（為貝誠司氏のご母堂様）
㈲為貝種苗園（茨城県）
令和５年２月21日没
享年98歳

猪瀬清市　様（猪瀬隆市氏のご尊父様）
猪瀬農園（栃木県）
令和５年２月没
享年88歳

高橋光太郎　様（協会員）
関六園（神奈川県）
令和５年２月23日没
享年74歳

黒田照子　様（黒田　剛氏のご母堂様）
農事組合法人成田ナーセリー（千葉県）
令和５年４月10日没
享年87歳

鵜飼　智　様（鵜飼幸治氏のご尊父様）
㈲鵜飼農園（三重県）
令和５年２月25日没
享年82歳

特集

マツ材線虫病

植木類に加害する外来病害虫・東京周辺の事例⑫

樹木医　小林　明

【感染症】

感染症といえば、2020年1月以降、世界的に広がっている新型コロナウイルスによる病気が思い起こされます。マツ類についてみると、マツ材線虫病が感染症の代表的な存在です。

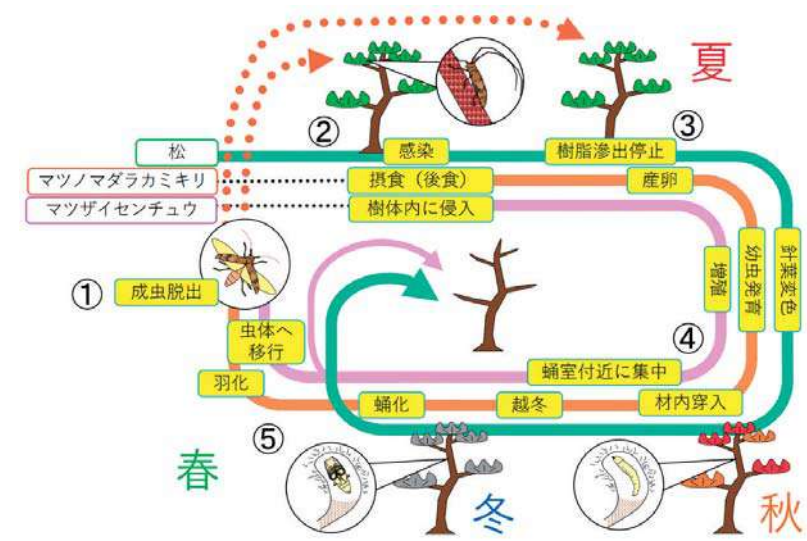
以前、このコーナーでマツ材線虫病の病原となるマツノザイセンチュウを紹介しましたが、今回は、病気として最近の状況を紹介します。

写真１　マツノマダラカミキリ標本

マツ材線虫病は、1900年代初頭に北アメリカから物流により侵入したとされるマツノザイセンチュウ（以下、センチュウ）が病原体で、西南日本で発生した後、北海道を除く全国に拡大し、現在も松林や公園、庭園樹のマツ類に枯れる被害が継続し、根絶が難しい病気です。原因が判明した1970年代までは松枯れ病と呼ばれ、現在も通用しています。

写真３　カミキリにかじられた跡 10月上旬

感染の媒体は、ほとんどが国内に自生するマツノマダラカミキリ（以下、カミキリ・**写真１、２**）です。センチュウはカミキリに侵入し、そのカミキリが飛翔して他のマツ類の小枝をかじるときにマツに侵入します（**写真３**）。カミキリは数キロの飛翔力があるとされ、その範囲にマツ材線虫病にかかったマツがある場合は、感染する可能性が高くなります。マツ材線虫病の1年の動向は、図のとおりです。



出典：マツ材線虫病にどう対処するか －防除対策の考え方と実践－
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所

カミキリによらない感染には、マツ材線虫病に感染した根が他のマツ類の根に触れてひろがることもあり、**写真４**のように近接したマツ類が枯れた場合は、感染する可能性があります。

【感染するマツ類と被害量】

マツ材線虫病に感染するマツ類は、クロマツやアカマツ、リュウキュウマツ、ゴヨウマツなどで、マツの名前があるカラマツやトドマツ、エゾマツ、リキダマツやダイオウマツはかからないとされています。

感染されやすい傾向を見ると、樹勢が衰退したマツ類が目立ちます。特に庭園などでは、仕立て樹形にしたマツで枝葉を伐りすぎて衰えて感染し、枯れた事例を見たことがあります。

林野庁が公表している資料によれば、1980年代後半に材積200万㎥台をピークに、2021年には26万㎥に減少していますが、数万本単位のマツ類が枯れている状況で、依然として注意が必要です。なお、林野庁では、マツ材線虫病による枯死を「松くい虫被害」と表現しています。

【判定の方法】

マツ材線虫病に感染するカミキリを寄せ付けないことですが、近隣に発症した木がある場合はほとんど防ぎようがありません。森林や松林では、薬剤散布や事前の伐採などが成果を上げていますが、公園や庭園などでは利用しにくい方法です。

そこで、以下のような方法が推奨されます。

○マツ類の生育を健全に保つこと

生育する場所によって条件が異なり、対策は様々ですが、陽樹であるため日照を確保すること、乾燥させ過ぎないこと、枝葉を剪定しすぎないことが大切です。

○樹幹注入剤の利用

樹幹注入剤には、薬効が7年ほど持続する薬剤もあり、定期的に用います。使用する時期は、仮道管内の水分が上がり始める春先で、施用時は適切な使用量を的確に注入することがポイントです。特に薬剤が漏れて形成層を傷めると幹に筋状の溝枯れが発生（**写真５**）し、ひどい場合は幹折れを招くことがあります。

○抵抗性のあるマツの利用

抵抗性のあるマツの開発が行われ、病気にかからない率は高いです。筆者が30年ほど前に数十本を植えたことがありますが、病気が発生している場所でも生存しています。

○枯死木の処理

枯れたマツの材にはセンチュウやカミキリが生息しているため、成虫が飛び始める5月以前に地際から伐採し、幹や枝は焼却処分か細かくチップにして幼虫や蛹を殺処分することが必要です。なお、根からも接触感染があるため、枯れたマツ類の近くにあるマツは、影響の有無を観察することが大切です。

写真２　マツノマダラカミキリの幼虫 10月上旬

写真４　生きているアカマツと隣接 3月中旬

写真５　樹幹注入剤の不適正使用例・アカマツ

お知らせ

春の視察研修会（東北）開催のご案内 ※全国旅行支援を適用 日本列島植木植物園運営委員会

日時　2023年５月31日㈬～６月１日㈭
場所　東北地方方面（視察圃場園は予定）
５/31　㈲北日本菅与㈱
　山採りの現地・圃場見学
６/１　小岩井農牧㈱植物見本園・歴史的建造物等、㈱みちのくビオトープ胆沢圃場
集合　５/31
　二戸駅14：10 or 花巻空港12：30
解散　６/１
　北上駅15：00 or 花巻空港15：30
参加費　4,000円　バス代・保険料等
宿泊費：7,535円／１人（左料金から全国旅行支援3,500円程引き、クーポン2,000円付）
宿泊先　ホテルパールシティ盛岡
締切り　2023年５月17日㈬
　（最低15名決行）
※詳細は視察ご案内（別紙　申込み書）

「樹木識別のポイント講習会」参加募集

植木圃場から教室に生きた樹木の枝葉を持ち込んで、似ていて間違えやすい樹種を葉と枝だけで見分けるポイントを学びます。樹木識別のスペシャリストを目指す方におすすめです。

1.日時・場所
令和５年６月11日㈰　13：00～16：00
国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟409
〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町
2.講師
協会員：川原田邦彦氏、吉澤信行氏、山﨑隆雄氏、八木峰夫氏
3. 費用　一般：5,500円（税込）
　学生：3,300円（〃）
4. 定員　各60名
5. 造園CPD・樹木医CPDプログラム認定

「環境緑化樹木識別検定試験」実施のお知らせ

環境緑化樹木識別検定試験は、みどり豊かな環境形成に重要な樹木100種類の名前を正しく識別する検定です。

1. 日時・場所
令和５年７月８日㈯　13：00～15：00
大田区産業プラザ PiO ６階Ｄ会議室
〒144-0035 東京都大田区南蒲田１-20-20
2. 受験料　一般：8,250円（税込）、
　学生：4,400円（〃）
3. 申込締切　令和５年６月30日㈮
4. 造園 CPD プログラム認定申請中

令和５年度　都道府県別供給可能量調査　開始案内

全支部の提出に向けご協力をお願いします。
調査期間：令和５年７月１日㈯～
　７月31日㈪
※６月下旬に入力用システム搭載のＣＤを支部長及び各支部ＩＴ委員にお送りします。
※調査結果は協会ホームページで公開し、官公庁及び造園関係団体の材料調達時の参考にしていただいています。

令和５年度　社園別生産数量調査 開始案内

協会事業である社園別生産数量調査を下記日程で実施します。
全社園様の提出に向けご協力をお願いします。
調査期間：令和５年６月25日㈰～
　７月20日㈭
①協会ホームページの会員ページにログインし、IDとパスワードを入力、②社園別生産数量調査入力用システムをダウンロード、③データを入力、④データ入力完了後にアップロード送信。
※詳細は同封した別紙「入力マニュアル」でご確認願います。

生産数量調査代行入力について

生産数量調査について、エィコスに代行入力をお願いすることも可能です。代行入力は有償となっています。料金の目安は70円／件、及び結果資料の送付料金等となります。希望される方は、下記にご連絡下さい。　エィコス　大畠　寿裕

連載「多肉･珍奇植物」

第２回 ビザールプランツの王道、アガベ

東京都市大学環境学部教授　飯 島 健太郎

◆プロフィール
東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医用工学部准教授を経て現職。博士（農学）。日本造園学会賞／研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書：『新しい都市緑化・ガーデニング材料／多肉植物』（ソフトサイエンス社）、『サボテン大好き』（講談社）、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』（主婦と生活社）、『サボテン全書』（監修、グラフィック社）、『多肉植物全書』（監修、グラフィック社）など。

青白い葉と放射状に展開する葉、そして鋭い葉端の刺や厳つい鋸歯、そのアガベの姿に魅了される層が急速に増えている。昨今のビザールプランツの中心的存在であることは、グーグルトレンド機能の検索傾向からも読み取れる。分類や導入経緯、開花特性、用途など話題の多いグループである。

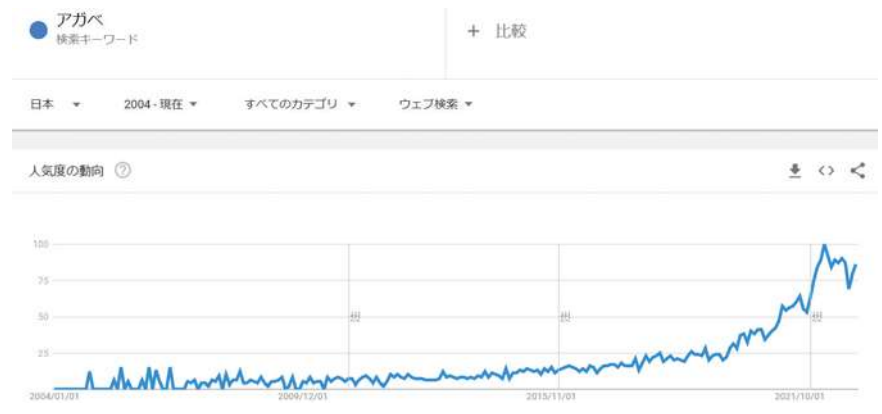
アガベ属の植物はアメリカ南部、メキシコなどの中央アメリカ、南アメリカ大陸の乾燥地帯に分布し、300種以上が知られている。分類上の変遷があり、子房の位置関係からかつてはヒガンバナ科に属していたが、後にユッカ、ドラセナなどとともにリュウゼツラン科に統合し、これが多くの図鑑に見られる分類となっている。さらに近年のAPG植物分類体系の導入により、キジカクシ科に分類されている。

原産地では古くからトウキビのように食用として活用したり、アガベシロップなどはよく知られている。発酵、蒸留したメスカルの一種であるテキーラはおなじみの強い酒である。繊維作物としても知られており、葉の内部繊維から柔らかく弾力性に富んだ縄などが作られたりしている。最もメジャーな用途は観賞用であり、大型種はドライガーデンなどの露地植え植栽用、小型種は温室植物やインドアグリーンとしてコレクションから観賞対象として今日に至る。アガベは１世紀に１度咲くという意味合いでセンチュリーフラワーとも呼ばれるが、100年とは言わないものの種類によって樹齢10～60年程度で花茎が伸長して開花後に親株は枯死してしまう。しかし基部には次世代を担う子株が形成されていることがしばしばである。

わが国では、古くから特殊樹として大型種の「リュウゼツラン（竜舌蘭）」が用いられてきた。先に輸入された斑入り種にその名がつけられ、基本種には「青の」を付して「アオノリュウゼツラン」とされているのが命名上の特徴である。非常に強健であり、公園緑地等のシンボル的な植栽にも導入されてきた。株全体のフォルムや葉の色合いの美しいドライガーデン向きの配植材料としては、青白い広い葉が美しくロゼット状に展開するアガベ・パリー、明るい緑色のシャープな葉を無数に展開させ一見ユッカのようであるが立ち上がらない吹上などが用いられる。アガベの耐寒性種は、日照条件に恵まれ、排水性に富む条件であれば零下数度にも耐え、特に強健な種類は南東北あたりでも植栽可能性がある。一方、耐寒性に乏しい種も多いので屋外の植栽デザインでは留意したい。葉の模様などディテールに着目するとフィラメントと呼ばれる繊維質の白い毛を発生させる「滝の白糸」、ペンキと呼ばれる葉上の白いラインが特徴的な「笹の雪」が美しい。近年、マニアに最も好まれているのが、寸詰まりの葉の重なり形状と発達したノギ（鋸歯）を観賞する「アガベ・ティタノタ」であろう。本種は古くから親しまれてきた種であるが、フェリペ・オテロ氏によってメキシコのシエラ・ミクステカで発見された'FO-076 Sierra Mixteca'と呼ばれる鋸歯が大きい系統の導入によって、その人気が爆発的に再燃した。以上のようにアガベには大型種から小型種、様々なフォルムの株、色彩・模様やノギの形状も様々であり、さらには白色、黄色の斑入種があり、コレクションとしても配植材料としても事欠かない。同一種内でも形態的な個体変異が非常に多く、葉がワイドに変異したもの、限りなく葉の重なりが詰まったもの、ノギが極度に発達したものなど多くのマニアが同種の個体差を楽しんでいる。こうした顕著な個体差からアガベ属の種や亜種の分類は非常に困難とも言われている。栽培については、日照、用土、給水など基本的な条件から如何に厳しい条件に移行するかといったテクニックによって、フォルムの崩れを予防したり、逆により寸詰まりでノギを発達するための堅づくりにチャレンジしているコアなマニアが増えてきた。一方、希少性とともに栽培環境事情から陽のささない屋内でのアガベ栽培という、かつては考えられなかった傾向も増えつつある。これを可能にしたのが昨今の栽培用LEDライトの普及であり、演出性とともにビザールプランツを対象にした独自のインドアグリーンの世界を展開している。アガベは、実生からの生産も活発に行われている一方で、特にフォルムに拘る個体として昨今では現地球を対象としてベアルートとして輸入するケースも増えつつある。あらためて自生地を荒らすことの無いよう、実生品から好みのフォルムを形成していくような栽培技術の向上に興味が深まることを願いたい。

吹上（*Agave stricta*）

吉祥天（*Agave parryi*）

アガベ・ティタノタ（*Agave titanota*）

笹の雪（*Agave victoriae reginae*）